

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ☐ 部分は外部評価の調査項目です ）

取り組んでいきたい項目

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者の有りの俤を受け入れ、しっかりと話を聴き真の訴えに耳を傾け、共に寄り添い、共に感じる」を全スタッフで共有し、利用者の方々の生活に携われるよう『受容・傾聴・共感』をホームの理念としている。また、「自分の親を入所させたい施設」、「家族の前でできないことは普段からしない」ことを全スタッフ共通のモットー、約束事としている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホームのスタッフとしてのあり方を、日々のケアやミーティングを通して全スタッフに語りかけ共有を図っている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	開所にあたり、地域の方々への紹介・広報を兼ねて見学会を実施、又、ホーム内での行事にはご家族、近隣の方へ参加の呼びかけを行っているが、理念については啓発、広報等は行っていない	○	ホーム便り、運営推進会議、地域行事等を活用し、理念についても理解を得られるよう取り組みたい
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	来客やご近所の方がホームの前を通られる際には笑顔で挨拶することを心がけている。最近では近所の方から野菜をいただいたり、催し物の際には参加して下さるなど、日常的な付き合いが出来てきている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会等へはまだ参加していないが、近くの小学校とは利用者の方々の作品を提供したり、子供達が来所し歌を唄ってくれたり、鉢植えを提供してくれたりと交流を行っている。又、行事等の際は近隣の方々に参加の呼びかけを行っている	○	自治会、老人会等へ参加したり、地域でのイベント等へ積極的に参加できるよう取り組みたい

グループホームいちょうの杜やすらぎ（よつば）

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣の方々へホームの行事や気軽に立ち寄って頂けるような呼びかけを行っている	○	認知症やグループホームの説明、介護の方法など地域の方々が必要とされるような取り組みを行っていきたい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は今回初めて実施するが、自己評価表を基に全スタッフで現在の取り組みや日々のケアについての見直し、意見交換等を行い、取り組んでいるところ、取り組めていないところや改善すべきところ等を把握することができた		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見や助言等を基に改善点をスタッフ間で共有し、改善すべき所は改善できるように意見交換を行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	電話連絡や所用で市役所を訪れる際などは担当者の方とお会いし運営や利用者の方の事例等について相談したりするようにしている。また、ホームの行事等の際には参加の呼びかけを行い、実際の取り組みを観ていただいたりしている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員は制度についての知識を有しているが、全スタッフがその内容を把握はできておらず、勉強会等も行っていない	○	勉強会を実施したり、研修に参加するなど全スタッフが制度の内容を把握し活用できるように取り組んでいきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修会への参加、又、日々のケアやミーティングを通じて虐待の内容や発生要因について勉強する機会を持っている	○	虐待についてだけでなく、身体拘束についてもマニュアル等を作成し、スタッフのみならずご家族等へも周知徹底できるよう取り組みたい

グループホームいちょうの杜やすらぎ（よつば）

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学時や入所相談の際に契約、その他必要事項について説明をしている。不明点、不安点等については電話連絡や来所での相談などいつでも尋ねて頂ける体制を取っている		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアの中で一人ひとりの利用者とゆっくりと話す時間を持ち、コミュニケーションを取る中で意見や不満、不安な事などを話せる雰囲気作りを心掛けており、意見等が把握できた場合にはミーティング等を行い改善するよう取り組んでいる		
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の生活や健康状態については、必要時に電話連絡やホーム便りにより行っている。又、金銭管理については必要時の連絡と、毎月の請求時に使用明細とレシート、領収書を郵送している		
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や電話連絡時に会話する時間を持ち、利用者の方々の運営についての意見や相談、要望等をお聞きし、把握できるようにしている。また、重要事項等の説明の際にも、相談や苦情は遠慮や気兼ねせずに伝えて頂くことが利用者の方々のより良い生活につながり、スタッフの勉強にもなることを折りにふれてお伝えしている		
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を言いやすい雰囲気作りに努めており、意見や提案等は十分に聞くように心掛け反映するように心掛けている。また、意見等を取り入れられない場合などは理由を明確にするように心掛けている		
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の方々の体調変化による病院受診や希望による外出、ホームの行事等の際には必要な職員数が確保できるように勤務の調整を行っている		
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なるべく馴染みのスタッフでの関わりを継続しているが、少なからずスタッフの退職等がある為、スタッフが退職する際は、利用者の方々へ説明し、なるべくダメージが少なくなるよう全スタッフで対応するようにしている		

グループホームいちょうの杜やすらぎ（よつば）

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○ 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用面接時にグループホームを希望する動機や想いを大切にしているので、年齢、性別等は関係なく、実際、20代前半から60代前半まで幅広い年代のスタッフを採用している。また、仕事に対する希望や要望を聞き、モチベーションを高めて働ける環境作りに努めている		
20	○ 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングや日々のケアの中で、ホームの理念やモットー、人権等について説明し理解を得られるよう指導しているが、ホーム内のみで行っており、研修等についてもスタッフ全員が受講しているわけではない	○	外部での研修や、ホーム内での勉強会を利用し、全スタッフが人権について学べる機会を設けたい
21	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修なども積極的に受講できるように勤務調整を行うなど、研修、講習などを受講しやすいように配慮している。また、看護師や介護福祉士などが中心となって指導を行ったり、資格保有者は適宜、資料の提供や助言を行うようにしている		
22	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市介護サービス事業者協議会のグループホーム部会に参加し、研修や交流会などを通じて交流を図っている。また、納涼祭等の行事の際には近隣のグループホームに参加の呼びかけを行うなどの取り組みを行っている		
23	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフが気兼ねなく声を掛けやすい雰囲気作りや、いつでも相談しやすいようこちらから声を掛けたり笑顔で接するなど心掛け、極力スタッフのストレスが軽減できるよう配慮している		
24	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	普段の勤務態度や勤務状況等を注意深く見極め、必要に応じて適切に評価しているが、勤務に対する各スタッフの個人的な理念や目標等は取り入れていない	○	ホームの理念のみでなく、各スタッフの勤務に対する理念や目標を設定することにより、より意欲的に向上心を持って勤務できると考えており、今後、各スタッフと面談等を通じて目標設定等を実施していきたい

グループホームいちょうの杜やすらぎ（よつば）

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用相談時より、利用者本人の思いや、希望を十分に聴き、また、利用者本人が話しやすいような雰囲気作りに努めている		
26	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用相談時より、ご家族の思いや、ホームに対する要望、利用に関する不安など十分に把握できるよう、話しやすい雰囲気作りと訴えを良く聴くよう努めている		
27	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談時に介護職員のみでなく看護師も含めて相談内容や利用者の状態を確認し、必要なサービスがあれば関係機関と連絡をとるなど対応している		
28	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に際しての不安や生活環境が変わることにより精神面が不安定になるようなことが考えられる場合は、事前にご家族や関係者と相談しながら体験利用（宿泊も含む）により徐々に馴染めるように対応している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフへは「介護している」ではなく「一緒に生活している」という姿勢で望むように話をしており、一方的にサービスを提供するのではなく、一緒に楽しんだり、一緒に泣いたりできるような関わり、関係を築けるように努めている		
30	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	普段から心配事や相談事など気兼ねなく話をできるような関係を構築できるように努めている		

グループホームいちょうの杜やすらぎ（よつば）

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の方とご家族の関係や入所以前の関わりなどできる限り情報収集し、スタッフの支援だけでなく、ご家族の協力を得ながらいい関係でホームでの生活を送れるよう必要な支援を行っている		
32	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々との関係を継続できるように、面会に来られる時だけでなく、手紙を書かれたり、電話をされたりする際の必要な支援を行っている		
33	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりの性格や身体状態、普段の生活の様子などからスタッフ間で情報交換を行い、利用者が孤立したりせず、いい関係で生活していただけるよう配慮している		
34	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院をされた場合、スタッフが面会時に洗濯物を持ち帰り、次回面会時に持参したり、必要に応じてご家族とも連絡を取り合うなどの支援を行っている		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの利用者とはゆっくり話す時間を持ったり、普段のコミュニケーションの中で生活に対しての思いや希望を把握できるように努めている		
36	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所相談時に利用者本人、ご家族、関係者等より生活歴や以前のサービス利用状況、経過等をできる限り情報収集しているが、全スタッフが内容を把握できているわけではない	○	情報収集した内容を全スタッフが把握し、利用者の生活に活かせるよう徹底していきたい
37	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	観察するだけでなく利用者との会話を通じて、ことある事に介護記録に記録を行い、ホームでの生活リズムや身体状態の把握に努めている		

グループホームいちょうの杜やすらぎ（よつば）

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃から利用者やご家族より意見や希望を聴き、また、介護、看護職員や主治医の意見も参考にしながら介護計画に反映するようにしている		
39	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態等に変化があった場合はミーティング時に意見交換を行い、ケア内容の変更や状態に応じたケアを提供できるようにしているが、介護計画の変更まではできていないことがある	○	一定期間での見直し、状態変化時の見直しを行い、スタッフ間のみでなく家族、関係機関を含めて介護計画の見直しを行うようにしていく
40	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容、気付き等については介護記録に記入しており、必要に応じてケア内容の変更やミーティング等で話し合っているが、全スタッフでの情報共有や介護計画の見直しまではできていないことがある	○	介護記録への記入、スタッフ間での情報共有の方法を見直し確実に情報を共有でき、介護計画の見直しや実際のケアに活かせるように取り組んでいく
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、ご家族の状況や要望に合わせて必要な支援を行っている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアで身体機能維持のためのケアピクスを取り入れたり、徘徊や非常災害時の捜索等の依頼を事前に近隣の交番に要請。また、防災訓練を消防署立ち会いの下実施するなどしている		
43	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用している方は現在のところいらないが、必要に応じて関係機関との連絡をとるなど対応していきたい		

グループホームいちょうの杜やすらぎ（よつば）

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議への出席を依頼し、必要に応じて助言や支援を得ている	○	運営推進会議のみでなく、普段から地域包括支援センターと連携を密に取り、利用者にとって必要な支援を得ることができるよう取り組んでいきたい
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望の医療機関がある場合は、利用者本人及びご家族等の意見を考慮している。又、かかりつけ医がない場合は、利用者の状態に応じてご家族とも連絡を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の医師に指導や助言をいただいている。又、必要に応じて認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が常勤しており、日中は健康管理や医療支援を行っている。又、夜間帯も連絡を取れる体制を取っている		
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	スタッフがお見舞いも兼ねて洗濯物を持ち帰ったり、必要な物があれば持参するなど身の回りの支援を行っている。又、入院中の様子や病状など主治医や看護師、相談員と面談を行い情報収集を行っているがスムーズにいかない場合がある	○	ご家族や医療機関と十分に連絡、連携し情報交換等がスムーズにできるよう努めたい
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時より終末期の対応については話は行っているが、早い段階での本人、ご家族、かかりつけ医との話し合いはできていない	○	重度化、終末期以前の早い段階での意思確認や、話し合いを行っていき関係者が情報を共有できるように取り組んでいく
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の変化や急変に備えて、ホームとしてできること、できないことなどを看護職、介護職問わず、又、かかりつけ医や他のサービスも含めて支援できるよう、現在検討している		

グループホームいちょうの杜やすらぎ（よつば）

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者やご家族等と十分に話し合い、情報交換を行いながら、利用者自身が大切にされている物、身の回りの馴染みの物など落ち着いて生活が出来るような物を可能な範囲で持参して頂き、落ち付いた環境で生活を送ってもらえるよう努めている		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライドやプライバシーを損なうことがないよう、ホームの理念やモットーを日々のケアやミーティング等ことある事にスタッフに話をし徹底できるようにしている。また、個人情報についても入所時に個人情報の取り扱いについての同意書いただいております、それに沿って適切な取り扱いを行うよう努めている		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の状態や理解に応じてコミュニケーションを図り、必要に応じて筆談やジェスチャー等も交えながら説明や理解を求め、なるべく利用者自身で自己決定ができるよう努めている		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事や外出、ホーム内での日課等もその日の気分や体調により参加したくない場合などは無理強いせず、一人ひとりのペースを尊重するよう努めている		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着衣などスタッフが用意するばかりでなく、いくつか利用者に見ていただき決定して頂いたり、希望に応じて髪を染めに美容室へ行ったり、衣類を一緒に買いに行くなどしている		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる範囲内で配膳や引膳、野菜の皮むきなどをお手伝いしていただいているが限られた方のみしか行っていない	○	メニューを一緒に考えたり、味付け、盛りつけなど調理に関しても一緒に取り組めるようにしたい

グループホームいちょうの杜やすらぎ（よつば）

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者によってはたばこを吸われたり、一緒に買い物に行き好きな物を購入されたり、一緒にケーキやたこ焼きを作ったりしている	○	利用者の方と一緒に昔なじみのお菓子の作り方を教わったり、一緒に作ったりしていきたい
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりに応じた排泄パターンや習慣の把握を確実にを行い排泄の失敗が極力ないように心がけている。また、プライバシーやトイレの清潔面にも配慮し気持ちよく排泄が行えるよう支援している		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は無理強いせず、希望に応じて入浴していただけるよう心がけ、利用者のペースでゆっくりと入浴していただき、コミュニケーションを図りながら楽しんでもらえるよう配慮している。また、洗身など可能な限り自力で行ってもらえるよう声掛けを行い、入浴している実感を持っていただけるよう心がけている		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間の設定はしておらず休みたいときに休んでいただき、また、居室の室温やベッド周辺の環境を整えることにより気持ちよく安眠できるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや裁縫などの家事のお手伝いなど生活歴を活かし、自信を持っていただけるよう支援している。又、得意のハーモニカ演奏、カラオケを歌ったり、近所まで散歩に行くなど一人ひとり好きなことができるように支援している		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭の管理は事業所が行っているが、利用者によっては自分で金銭を所持されている方もおり、他利用者との金銭トラブルや紛失などが無いようにスタッフが気掛けて支援している	○	買い物などの際に家計簿(おこづかい帳)を付ける習慣を身につけて頂き、金銭管理、お金の大切さを認識して頂けるよう支援していきたい
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて一緒に買い物やドライブ、コンサートや散歩、季節の花見や行事に行けるように支援しているが、個別に対応できない場合などまれにある	○	利用者一人ひとりの希望に応じて外出などがいつでもできるよう取り組みたい

グループホームいちょうの杜やすらぎ（よつば）

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の方々が肌で季節を感じていただけるような行事や外出(花見や足湯など)を行い、また、ご家族も参加して一緒に食事を食べたり、催し物を行うなどしている		
65	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	数名の利用者の方は携帯電話を持たれており、好きなときにご家族や知人に電話をされたりしている。また、希望に応じてホームの電話を利用されたり、手紙やはがきを自由にやりとりができるよう購入や代筆、投函するなどの支援を行っている		
66	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	コミュニケーションを十分に取ることにより、スタッフとご家族の間に信頼関係を構築し訪問しやすい雰囲気作りに努めている	○	ご家族のみでなく知人の方や、近隣の方々が気軽に立ち寄れるような取り組みを行っていきたい
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の勉強会や研修会に参加したり、日頃のケアを行う際に身体拘束についてスタッフに話しをしているが、すべてスタッフが身体拘束について理解できてはいない	○	外部での勉強会研修会への参加はもちろん、ホーム内での勉強会も計画し、すべてのスタッフが理解できるよう取り組みたい
68	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関及びフロア入り口のドアには鍵は掛けていないが、人の出入りが確認できるように開閉時にはドアセンサーがなるようにしている		
69	○ 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は定時、必要に応じて巡回を行っており、日中も所在や様子の確認を行うように徹底しており、事故等につながらないよう安全に配慮している		
70	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	たばこを吸う方はライターや火の始末の確認、また、包丁等はケースに入れ手の届かない所に収納しており、包丁や調理ハサミ、花切りハサミなど刃物を扱われる際はスタッフがさりげなく見守りを行い、使用後の収納の確認を確実にし危険防止に努めている		

グループホームいちょうの杜やすらぎ（よつば）

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災、災害等については防災訓練や勉強会を行いマニュアルを整備しているが、その他の事項についてのマニュアルはあり口頭やミーティング時に口頭で説明しているが勉強会等を行えていない。又、ヒヤリハット事例等を記録し事故防止につながるようにしている	○	転倒、誤薬など起こりうるいろいろなケースについての勉強会を行い、全スタッフがいろいろな知識を習得できるよう取り組んでいく
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署主催の講習を受講しているスタッフがあり、マニュアルも整備しているが、すべてのスタッフが訓練等を行っているわけではない	○	消防署に依頼し、応急手当や心肺蘇生法の講習会を行う予定にしている
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員立ち会いで避難訓練を実施し、利用者の状態に応じた避難の仕方を教わるなどしている	○	避難訓練等を近隣の方々と一緒に実施するなどの取り組みを行っていきたい
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	見学時や入所相談時にできる限り利用者の情報収集を行い、状態に応じたリスクがあることを利用者、ご家族に対して説明している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルサインのチェック及び日常の生活状況、コミュニケーションの中でいつもと違う変化や状況を見過ごさないよう努めている。又、その情報は看護師はもちろんのこと全職員が把握できるように伝えている		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の文献を綴じており、いつでも服薬の内容等を確認できるようにしている。又、通院や状態の変化により服薬内容が変更になった際は、連絡ノートや口頭により全職員が把握できるようにしている		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜等、繊維の多い食材をこまめに食事に取り入れ、食事以外でもこまめに水分摂取して頂くよう心掛けている		

グループホームいちょうの杜やすらぎ（よつば）

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	感染予防も兼ねて、食前、食後のうがいや口腔ケアに努め、ブラッシングやガーゼ等を使用するなど個々の能力に応じて支援している		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	既往歴や現病歴に応じて、かかりつけ医と連絡を取りながら、指示のもと栄養バランスを考慮している		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防のマニュアルは整備しているが、全スタッフへの教育、指導はあまり徹底できていない。外出などから帰った際は、スタッフ、利用者問わず手洗いの励行及び食事前のうがい(殺菌作用があるため、うがいは緑茶使用)を徹底している	○	全スタッフへの教育、指導に力を入れていく
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具等の消毒液の設置、食器乾燥機の使用、また、冷蔵庫内の清掃や台所の環境整備、清潔に心掛けている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関、建物周辺に花や植物を植えたり、玄関の環境整備を行うことでご家族や近隣の方など誰でも気軽にきて頂けるよう配慮している		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を飾ったり、毎月作成するカレンダーに季節毎の催し物や植物等を取り入れている。また、環境整備を毎日行い、快適な空間で生活して頂けるよう配慮している		

グループホームいちょうの杜やすらぎ（よつば）

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の所で新聞を読まれたりひなたぼっこをされたり、ソファ、テーブル席でお話をされたりと一人ひとり、思い思いに過ごされている		
85	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込まれる物に特に制限はないが、当初より設置しているベッドやタンス等をそのまま利用される方が多いが、馴染みのタンスや椅子、また、位牌を持参されている方も居られる	○	利用者やご家族の希望や要望などを十分に確認し、馴染みの家具や調度品なども取り入れるようにしたい
86	○ 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気がこもらないように適宜に換気を行っている。また、時期に応じた室内温度調整、湿度調整をこまめに行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○ 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りの設置、障害物の除去、環境整備を徹底して事故防止に努めている		
88	○ わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの理解力や現状に応じて居室環境を整えたり、慣れた居場所、物品の配置や環境を極力変更しないよう工夫し、環境の変化による混乱等を防げるよう配慮している		
89	○ 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	洗濯物干しや花壇の手入れ、草むしりを手伝って頂いたり、ベランダで植物を栽培し水やりを日課にされる方がいたりたり、たばこを吸われたり、また、天気の良い日にはデッキに出て皆さんでおやつを食べたりしている		

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に○印をつけること)	
・サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
		○	利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
		○	家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

グループホームいちょうの杜やすらぎ（よつば）

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 （該当する番号欄に○印をつけること）	
		↓	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
		○	職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない